

問1 助動詞の問題

(1) 接続

① 草の上に置きたりける露を、

連用形

② 行く先多く、夜も更けにければ、

連用形

③ 鬼、はや一口に食ひてけり。

連用形

④ 露と答へて消えなましものを

未然形

問1 助動詞の問題

(2) **助動詞**の文法的説明(p 44 右下)

2

(ア) 意味

(イ) 品詞

(ウ) 基本形(終止形)

(エ) 活用形

① 草の上に置き**たり**ける露を、
存続の助動詞「**たり**」の連用形。

② 行く先多く、夜も更け**に**ければ、
完了の助動詞「**ぬ**」の連用形。

③ 鬼、はや一口に食ひ**て**けり。
完了の助動詞「**つ**」の連用形。

④ 露と答へて消えな**まし**ものを
実現不可能な希望の助動詞「**まし**」の
連体形。

問2 文法問題

☆助動詞の文法的説明(p 44 右下)

(ア)意味

(イ)品詞

(ウ)基本形(終止形)

(エ)活用形

②「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。

過去の助動詞「けり」の連体形。

問2 文法問題

☆**動詞**の文法的説明(p 14右下)

(ア)活用する行

(イ)活用の種類

(ウ)基本形(終止形)

(エ)活用形

①女のえ**得**まじかりけるを、

ア行下二段活用動詞「得」の終止形。

③はや夜も明けなむと思ひつつ**み**たりけるに、

ワ行上一段活用動詞「居る」の連用形。

④率て**来**し女もなし。

力行変格活用動詞「来」の**未然形**。

問3 現代語訳問題

①女のえ得まじかりけるを、

女で手に入れることができそうにな
かった女を、

【採点基準】

A 同格の「の」の訳出

(女でゝ女を、)

B 「えゝ打消」の訳出(ゝできない)

C ゝそうにない(打消推量)

D ゝた(過去)

②鬼ある所とも知らで、神さへいとい
みじう鳴り、。

(男は)鬼がいる所とも知らないで、雷
までもとてもたいそう鳴り、

【採点基準】

A ゝないで(接続助詞「で」)

B 雷

C ゝまでも(副助詞「さへ」)

D とてもたいそう(いといみじう)

問3 現代語訳問題

③はや夜も明けなむと思ひつつゐたりける

(男は)早く夜も明けてほしいと思ひながら座っていた

【採点基準】

A 早く

B くてほしい

C 思ひながら(接続助詞「つつ」)

D 座る(「居る」)

E くている(存続)

F した(過去)

問4 古文常識

在原業平

問5 内容説明(40字)

(1) 解答の枠を決める

〇〇の、△△という心情。

(2) 傍線部の現代語訳

「足ずりをして泣けども」

地団駄を踏んで泣くけれども

(3) 問われていることとの理解

「地団駄を踏んで泣くけれども」に表現されるのは、誰の、どのような心情か。

(4) 要素を抽出する

①「誰の」を考える。

男の

②「どのような心情か」を考える。

問5 内容説明(40字)

(4)要素を抽出する

②「どのような心情か」を考える。

「地団駄を踏む」に表現される心情

↓悔しがる、残念がる

「泣く」はどっという心情からくる涙か

↓悲しい

(5)要素を結合する

〇〇の、△△という心情。



男の、悔しがつたり、残念がつたりして
悲しむ心情。(24字)

☆文字数不足⇨要素不足

(6)要素を追加する

問5 内容説明(40字)

(6)要素を追加する

男の、悔しがったり、残念がったりして
悲しむ心情。(24字)

☆男は、「なぜ」右のような心情になる
のか。

↓荒れ果てた蔵に入れていた女がいな
かったから。

(7)要素を再結合する。

男の、連れて来た女がないことに対し
て、悲しんだり残念がったりして泣く心
情。(38字)

【採点基準】

A 男の

B 悲しんだり、残念がったりする心情

C Bは連れてきた女がないから

問6 和歌問題 5問

白玉か 何ぞと人の 問ひしとき
露と答へて 消えなましものを

(1) 縁語について

が縁語の基準語であり、

が詠みこまれている。

(2) 「露」について

ア 光るもの

イ 貴重なもの

ウ 美しいもの

エ はかないもの

問6 和歌問題 5問

白玉か 何ぞと人の 問ひしとき

露と答へて 消えなましものを

(3)「消えなましものを」の意味

ア 鬼が消えていたかもしれないのに。
なんとも惜しいことをしたものだ。

イ 女が消えてしまっていたら、鬼も手のほどこしやうがなかったろうに。

ウ 女が消えなかったとしても、悲しい結果に変わりはないかっただろうに。

エ 女とともに自分も消えていたら、悲しい思いはしなくてすんだだろうに。

☆直訳をする

消えてしまえばよかったのになあ。

問6 和歌問題 5問

白玉か 何ぞと人の 問ひしとき

露と答へて 消えなましものを

(4)理由説明

男が女の質問に答えなかった理由

ア 周囲の音がうるさくて女の声が全然聞こえなかったから。

イ 暗くて女が何のことを聞いているのか分からなかったから。

ウ 逃げるのに必死で女の質問に答える余裕がなかったから。

エ 女がまだ非常に若くて、答えても理解できないと思ったから。

問6 和歌問題 5問

白玉か 何ぞと人の 問ひしとき

露と答へて 消えなましものを

(4) 現代語訳 ※必要な語句を補う

「あれは真珠なのか。何なのか。」とあの人【Ⅱ女】が質問したとき、「露だよ。」と答えて、その露が消えるのと同じように私も、消えてしまえばよかったのになあ。そうすればこんな悲しみもなかったろうに。

【採点基準】

A 「あれは真珠なのか。何なのか。」と最愛の人が質問したとき、

B 「露だよ。」と答えて消えてしまえばよかったのになあ。

C その露が消えるのと同じように私も

D そうすればこんな悲しみもなかったろうに。

問7 本文理解問題

ア「女のえ得まじかりける」という表現から、男は女の同意なしに無理やり連れ出しことが読み取れる。

イ「行く先多く」という表現から、男は複数の潜伏先を用意して、追っ手をかわそうとしていたことが読み取れる。

ウ「足ずりをして泣けども」という表現から、男がうろうろと歩き回って戸惑うばかりであることが読み取れる。

エ「白玉か何ぞ」という発言から、女が草に置く露を見たことのない深窓の姫君だったことが読み取れる。